



題字 廉隅 進

会長就任のご挨拶

BN 661 大賀 徹雄



この度、幹事会・会員総会にてご推挙いただき、鈴木前会長より「なため会」会長を引き継ぐこととなりました。大学を卒業して丁度50年の節目となり、身を引き締めて努めてまいりますので、皆様のご支援・ご指導を宜しくお願い申し上げます。

昭和43年卒業から25年間傍観者の一〇Bあった私が、その後なため会に絡んできて感じたことは、創部84年となる伝統あるMWVで、昭和40年卒から遡って9年間程が最大の部員数を誇っていた時期であり、昭和の卒業までとその後の卒業〇Bとで、「なため会」に対する意識が変化してきていると皆様も感

第 59 号

明治大学体育会
ワンダーフォーゲル部
なため会会報

じているのではないでしょう。卒業年度や〇Bの絶対数が違う等要因もありますが、これから先の「なため会」組織を考えるに重要なポイントと考えます。

なため会規約の目的には「会員相互の親睦を図るとともに、明治大学ワンダー

フォーゲルに対する支援を行う」とあります。現役支援に関しては、なため会行事での交流や参加費の一部補填、〇B個人でのスポーツサポート募金を継続しております。問題の会員相互の親睦・交流に関しては、同じ会費でも地方会員は東京に集中するなため会行事の交流は不可能なわけで、また首都圏に集中する会員でも若手会員のなため会への理解が希薄になってきている事など、なため会として改善していかなければなりません、その結果として新規の会費納入も期待できると考えています。

今回会長をお引き受けするにあたり、この先4年間は年中行事（幹事会&会員総会、歓送迎会）以外の特別記念行事（奥鬼怒山荘竣工60周年と針生山荘竣工40周年、創部90周年、なため会発足70年）はありませんので、なおのこと「なため会」組織の維持・発展に傾注していかなければならないと考えています。

ご存知とは思いますが、「なため会運営委員会」は毎月第2火曜日の18:30から実施し

ており、幹事長はじめ、それぞれの運営委員会メンバーが、現状のなため会組織の健全な運営のための対策と実施を真剣に検討しております。会員皆様方のご理解とご指導を頂ければと思います、今後とも宜しくお願いいたします。

学生時代、明大ワンダーフォーゲル部に

身を置くことのできた幸せ

BN 610 石田 正

昭和39年4月、明治大学に入学してまもなく、明大前から和泉校舎へ行く途中で先輩に誘惑されて入部しました。体育会がなんなのかもわからないまま、山に行くクラブだと言われ入ってしまったのです。母親から「山岳部だけは止めておくれ」といわれていて、どうしようかと思っているときでした。

確かに草津の山小屋で行われた新人歓迎会は楽しかったです。先輩の対応も言葉遣いも魅力的でした。なんと女子班もありました。高校時代、個人的な山行しか知らなかった私にはチームで山に行くことの新鮮さ、リーダーから新人に至る明確なヒエラルキーに感じました。一方で、部員総会の時、一斉に発せられる「こんちわ!」という体育会的（軍隊?）な雰囲気は驚きもしました。

天国のような歓迎会は終わり、地獄のような新人養成が始まったのです。優しかった二年生は態度を一変させ、「甘ったれるんじゃ

1. 横浜港大規模出航（横浜港→ソヴィエト連邦）

1965年4月・計画が実現する！

旅行全図



【プロローグ】

昨年10月から計画を進めてきたヨーロッパ自転車旅行がいよいよ実現する。4月26日、午前9時大根橋に集合し、三人の家族、部の仲間、友人に見送られナホカに向け一泊二日の船旅で今回の旅が始まる。計画が動き出した今、懐には自転車旅行をやり遂げるに足る資金もなく、ヨーロッパで計画通りアルバイトが可能なのか、無事に旅行が出来るのか、途中で事故でも起こし野たれ死ぬのでは、といった思いが頭を離れず、期待と不安が交錯するなかでの船出であった。

4月28日、春まだ浅い初めての外国ナホカに上陸し、夕方夜行寝台列車に乗車して翌朝ハバロフスクに到着する。ハバロフスクに上陸し、翌日飛行機でイルクーツクへ飛ぶ。イルクーツクでメーデーの祭典を迎え、我々旅行者は専用の場所で行楽を見学した。

旅行全図



スイス・オーストリアザンクトギルゲン近郊

ねー！」が飛び交い、40キロの荷物が入ったザックを背負わされ、部屋から御茶ノ水の駅に行くまでにはばててしまう有様でした。新人養成から戻り仲間にあうと、ある者はほっぺたが腫れ上がり、別の者は背中がザックずれで、ひーひー言っており、大変なクラブに入ってしまったのではないかと後悔したほどでした。それでもなんとか2年間を過ごし3

年生になったとき、仲間の伊丹と片山と三人でヨーロッパへ自転車旅行計画しました。退部覚悟で相談にいったところ監督やキャプテン、先輩は我々に一年間休部して又戻ってこいと言ってくれました。のみならず試作車を作ってくれた自転車会社の紹介や、無銭旅行の大先輩、笹川良平さんを紹介してくれたり、有形無形の支援をいただいたのです。

明治大学に入ってから今年で55年たち、後期高齢者の仲間に入りました。なんとか気力と体力を保ちつつ、企業社会で現役を続けていられるのも、今

から考えるとワンダーフォーゲル部で社会生活を学び、欧州自転車ワンディングで多様な人間にまじわり、人に対する差別意識がなくなったことが影響しているのかもしれない。クラブ活動の5年間は自分にとって、人生のプラットフォームを作るための充実した時間だったと思います。

一時は事故を起こし廃部の危機に陥りながらも、最近は部員数も回復して安定的に推移しているときいています。学生さん達の意識も変化していく中で、クラブを維持していくのは本当に大変です。何年か前、4年生の卒業追い出しコンパ(?)で女性のキャプテンが誕生したことを知らされ、驚くと同時に倶楽

部が見事に立ち直ったことを実感しました。
ご承知の通り、企業社会では会社の名前は変わらなくても、時の経過と共に事業内容を変化させていく企業が生きて残ります。私を育ててくれたワンダーフォーゲル部は今、話題になっていくダイバシティ（多様性）をすでに取り入れており、これですべて将来的にも安心です。現役の皆さん、監督、部長先生をはじめとする執行部の方々のご苦勞に感謝します。やはり継続は力ですね。

鉄人28号の会 松本市に集合！

BN 979 石渡 伸治

女性1人を含む1985年（昭和60年）卒業のメンバー28人のうち15人が6月上旬、長野県松本市内に集まった。

目的は、飛騨山脈（北アルプス）と筑摩山地にはさまれたこの地ではぐくまれた同期の山男、務台優吉の七回忌と、同期中「最長老」の竹内雅博の還暦祝いである。

この同期会を機に、私たちの会の正式名称が「鉄人28号の会」になった。思い起こせば、大学入学直後の新人歓迎ワンデルングの仲間100人近くいたが、厳しい合宿やトレーニングに耐えて残ったのが28人だった。その根性（あるいは鈍感さ？）を自らたたえてつけたものだ。

梅雨入り翌日の6月8日、まず務台家の菩提寺「曹洞宗 青龍山全久院」にお参りした。

境内で務台のご両親の賢吉さん、陽子さん夫妻にごあいさつしたあと、墓地に向かった。同期の真言宗の僧侶、松井秀賢（法一）が導師をつとめ、一人ひとりが順番に焼香した。同期に僧侶がいると、こんなときにとっても助かる。

ここで、翌日の休日出勤のため、朝倉治俊がとんぼ返りし、14人が堀越勝己、尾上和郎、



6月8日、全久院境内で務台優吉君のご両親を囲んで

成田幸治、池田和洋、杉浦尚の乗用車5台に分乗して市内の美ヶ原温泉・富田屋別館に移動した。玄関前の歓迎看板には、少年バスケットボールチームの左隣に「鉄人28号の会御一行様」としっかりと書かれていて、ちょっと面はゆくなる。まだ、夕食までに間があり、ビール好きの池本直人らはさっそく館内の自動販売機探し。肌がすべすべになるような弱アルカリ性単純温泉にゆつくりつかったあと、宴会場での懇親会に臨んだ。

主将西一彦の音頭で乾杯。席上、紅一点の塩野（吉岡）泰代が代表となり、今年還暦を迎えた竹内に真っ赤なトランク스가手渡された。竹内は同期中最年少の大草、池田、塩野より4歳年上。出版社を定年前に辞め、一念発起して観光バスドライバーとなり、第二の人生を歩き始めている。私たち後に続くものにとっても、勇気づけられる。

翌朝、旅館前で松井、成田、池本とお別れ。残る関口秀康、中村聡ら11人が再び車で筑摩山地の美ヶ原高原へ。「長野県美ヶ原自然保護センター」前の駐車場降り、小雨のなか、約1キロ離れた美ヶ原高原の最高地点、王ヶ頭（おうがとう）をめざして超短距離ワンデルングをした。大草一浩が病み上がりとは思えない軽快さで先頭に立ち、のろのろした集団を引っ張った。下山後、市街地で信州そばを味わって解散した。

バブル景気のまっただに社会に出た私たちは、ワンゲルで鍛えた精神力と体力を少

しばかり過信し、金融、製造、食品、建設、メディア、司法、教育などの組織・団体の先兵となって働いてきた。途中で脱サラし、家業の中小企業を率いているメンバーもいる。この間、務台と渡辺知行の2人の仲間に先立たれた。また、今回の企画の中心メンバーだった若林稔は父親の急死で参加がかなわなかった。「鉄人」たちの両親も老いている。

「鉄人28号の会」メンバーは、再会のたびに若かりし頃の面影をお互いのどこかに見つけ出し、うれしくなる。年ごとに体力の衰えは感じるが、気持ちは学生のころのまま。できれば健康で長生きをし、また集いたいものだ。(敬称略)

女峰山

BN 845 加藤 章一

何年振りだろう、女峰山に登ったのは。卒業以来だから、40年振りになるのか。《昭和51年（1976年）新人養成で仲間を失ってから43年が経った。》

定年を迎え、自由に時間を使えるようになったら、行こうと決めていた。女峰山は山深く、登れるかが心配だったので、会社人時代の不摂生した身体を絞り、登れる体力を取り戻すには半年もかかってしまった。

令和元年6月4日、朝早く霧降高原から赤嶽山を経由して女峰山を目指す。天気は曇り空で暑くもなく登山日和であった。女峰山山



追悼碑

頂から少し下ったところにプレートがある。プレートが壊れていないか、コケや雨で汚れていないかが気になっていたが、思っていた以上にきれいで、しっかりしており、自分の目で確認出来て安心した。清掃し、皆の現況報告と見護りをお願いして山を下る。唐沢小屋に寄ったがすでに建て替えられていた。しかし当時の小屋跡は残っており、当時を思い出しながら少し時間を取った。

そこからはきれいな山ツツジを見る余裕もなく日光目指して長い道のりを下って行った。

同期会や当時の先輩を会った時には必ずその時の話がでる。みんなの思いとともに代表して行くことができて良かった。鈴木も安心して喜んでくれたことと思う。

「友よ眠れ、安らかに」

また会いに行くことを約束して！

二〇一九年 情断会スノーワンデリング

BN 788 原田 博文

今年の情断会スノーワンデリングは「スノーマスターを見に西吾妻山へ」と題して裏磐梯へ行ってきた。今回のメンバーは小田野、高島、宮澤、原田の四人。今年も好天に恵まれ、雪山を楽しんできた。

なお、裏磐梯は情断会にとっては現役四年の夏合宿BCの地であり、企画者の原田はパーティー行動で白布温泉から西吾妻山に登り、西大巔を経て早稲沢を下っている。その思い入れもあり三年越しの企画であった。

三月九日(土)

大宮駅の下り東北新幹線ホームはほぼ五分おきに列車が発着し、しかもどの列車も満員に見える。定年退職し無聊をかこっている身には久しぶりに興奮を覚える光景である。やがて高島と宮澤が乗った「やまびこ205号」が到着し四人が揃った。

郡山駅からは磐越西線に乗り換えて猪苗代駅に向かう。しばらく走ると車窓からは雪景色の磐梯山が見え、少し奥には明日登る西大

巔が見える。

昼少し前にホテルに到着。フロントに荷物を預けて五色沼の周辺で足慣らしのはずであったが、遊歩道の雪は観光客に均され、スノーシューは必要としない状態。かといってコースを外れるのは憚られるのでスノーシューはザックに括り付けたままで終わってしまった。しかし毘沙門沼から見た雪の磐梯山は雄大で、四年の夏合宿で休暇村BCから下級生に部旗を持たせて登った時の思い出に話が弾んだ。

三月十日(日)

今回のホテル、ほぼ最安のプランで夕食も朝食もビュッフェだがメニューは豊富だし、それぞれがとても美味しい。朝食もしこたま食べて、本日のエネルギーは十分である。

ホテルからはバスでグランデコスキー場まで行き、ゴンドラ、第四クワッドリフトを乗り継いで一五七〇mのグレンデトップまで登る。冬の西吾妻山は手軽な雪山として人気の山であるが、数日前までの天気予報が芳しくなかったせいか登山者の数は少ない。

皆ほぼ一年ぶりにスノーシューを装着していいよ登山開始である。ルートはしっかりとトレースがあり、多少物足りなさはあるが順調に高度を上げていく。好天で風もなく、樹林帯の中の登りではすぐに汗が噴き出す。樹林帯を抜けニセピークを過ぎれば西大巔はすぐ。標高一九八二mの山頂からは南を見れば磐梯山の雄姿や安達太良山が見え、北に目

を転ずれば飯豊連峰、鳥海山、月山などが見える。次に目指す西吾妻山は目の前だ。

展望を満喫した後は一度下って西吾妻山に向かう。天気は良く、高いところを目指して好きなところを登っていけるが、ガスったら大変だろう。なお、この付近からはスノーモンスターの登場となる。今年は雪が少なくスノーモンスターは小さめのようなのだが、我々にとっては絶景である。

スノーモンスターの間を通過して西吾妻山の



山頂に到着。とは言っても山頂はだっ広くてどこが頂上だかわからない。夏は展望のない山のようなのであるが、冬は三六〇度の展望が得られる。

山頂の景色を十分に堪能した後は西吾妻小屋まで下ってランチタイムとする。家に帰って学生時代の記録を見たところ、この付近で一泊したことになっている。ここで薪を燃やして飯を炊いたのだろうか？

帰りは西大巔を登り返すのもかったるいので、トラバースすることにする。トレースはしっかりついているが、谷側にこけたらそのまま下まで行きそうなので慎重に通過する。元の道に合流してからは樹林帯の道をひたすら下り、グレンデトップに帰り着いた。但し下りのリフトは乗れないのでゴンドラの山上駅までグレンデの脇を歩いたが、この頃には気温が上がり雪はザラメとなっていてなんとも歩きにくい。今回のワンデルングで一番きつかった部分ではないかと思う。

下山後はのんびりとグランデコの温泉につきり反省会を行った。今年のスノーワンデルングも大成功。

『風薫る』名古屋W

2019年5月11・12日 三重県御在所岳・馬越峠

BN 906 石田 猛

新しい時代『令和』の幕開けとなるワンデルング。企画を命じられた名古屋幹事5名

〈682(44卒) 森田峰彦氏・753(49卒) 小松宏之氏・906(57卒) 石田猛・941(58卒) 桂山誠司氏・1120(H5卒) 天野敬之氏〉は考えた。『先輩諸氏に遠路はるばる足を運んでもらい、ワンデルングを堪能してもらうのに適した山はどこか?』⁸⁵⁹(55卒) 丸山貞二氏と795(51卒) 濱田稔氏の新・旧企画振興部長の指示の下、さんざん悩んだ挙句、初日は、琵琶湖や条件次第で富士山も遠望でき、三重県ただひとつのスキー場がある、愛知三重で唯一の日本二百名山『御在所岳1,212m』。麓には湯の山温泉。翌2日目は、世界文化遺産『熊野古道(馬越峠522m)』と決定。W常連の先輩諸氏18人と初参加となるBNの若い6人、合わせて24名がエントリ。

5/11(土) 9:00名古屋駅『銀の時計』に集合。駅前より宿泊先『湯の山温泉希望荘』の貸切送迎バスに乗り込み、東名阪・第2名神を走ること一時間、希望荘に到着。ここまで自家用車で来た3名^{682(44卒) 森田峰彦氏・931(58卒) 三森克人氏・桂山氏}と合流。これで全員揃って御在所岳登山口へ。

初参加の6人には初対面となる先輩諸氏が多い中、卒業後初めて再会する懐かしい現役時代の先輩やコーチ。久々のWに胸が高鳴る。思い思いに身に付けた80周年記念Tシャツ・缶バッジや40年前のユニフォーム、昭和の山登りを彷彿とさせるキスリング(小型)。実に不思議なものである。初対面にも拘らず、あつという間に40年の時を飛び越えてMWV

で活動した同朋意識が甦り、意気に感ずる。先輩と後輩…当時の『嬉しい・楽しい・辛い』思い出が沸き起る。『厳しい』上下関係もしかり。先輩諸氏に対しては自然と頭が低くなる。そこで頭をヒョイと見上げれば、天気は上々、展望も期待できそう。その中で『折角、懸っているロープウェイを利用しない手はない』と、登り下りともにロープウェイ利用と合理的登山を決め込んだ先輩がお二人。残る22名は、御在所岳『中道登山口』へ向かった。休日法制定来、初となる十連休。その直後の週末とあって登山客は少なかった。

『中道』は、鈴鹿随一の展望や岩場キレツト等の魅力が凝縮。いきなり花崗岩のザレた掘割状急坂。トップを行く桂山氏に『ペース速いよ』。初参加でなためペースをつかむのが難しい? 地元高校山岳部第三コーチ、MWV3年部員時代を想い出し、国会の牛歩戦術ペースに。少し行った所に高さ7~8mほどの2枚の大きな岩が傾いて重なる『負ばれ石』。参加者の体力? 気力? がバラエティに富んでいるため、徐々に前後の間隔が広がってしまう隊列に一計を案じた丸山氏『隊列を2班に』。『健脚10人』と『ゆっくり歩きたい12人』とに分けられた。様々な岩場を通過するこのルート。足が痙攣する先輩や前夜の酒が響いたOB、先を案じて顔がこわばってくる方も。次に現れる『地藏岩』。人の丈の5倍以上はあるうかと云う2つの石柱(胴体)の上に今にも落ちそうな四角い岩(頭部)

が乗る。眼下に伊勢湾を一望。いい気分だ。ホッと一服。少し行つて『キレット919m』手前にてランチ。皆、ムクチ(無口)。

氣勢の上がない様子を見た最年長^{477(37卒)} 天野徹明隊長がさかさず、奥倉氏の差入れ『チヨコレートボンボン』を配る様に指示。お蔭様で皆、息を吹き返す。このキレット標高差30m程。南に鈴鹿山系で屹立する鎌ヶ岳、北に国見岳を眺め、ロープウェイがすぐ横を通過。イイ景色である。この鎖場も百戦錬磨の先輩諸氏は難なく下り、コルからは急登樹林帯。一行の中には展望を楽しむだけでなく、皆を元気づける為の写真や高山植物を被写体に、嬉々と山歩きを楽しむ元氣ハツラツBN^{530(39卒)} 磯崎守弘氏やBN^{532(39卒)} 鈴木正彦氏。西側に『ゆるぎ岩』や『天狗岩』の見える岩峰帯を通過すると、頂上付近に群生するアカヤシオ(ヤマツツジの亜種)が迎えてくれた。もう少し早ければ、山一面さぞや綺麗かと惜しまれる。最後の急坂を登り切ると東に展望ひらける『富士見台』。残念ながらこの日も富士山は霞の中。その代わりにこの時期はタテヤマリンドウやイワカガミ等の高山植物が一服の清涼剤。冬場はファミリゲレンデとして賑わう草原を下り、登り返して、頂上(一等三角点1,212m)到着。本体は更なる絶景を求めて先へ。好天で紫外線が強い中、心地良い風を感じながら、望湖台に到着。霞がかかり、琵琶湖も一望できず、残念だったが、360度の鈴鹿山系のパノラマ



は楽しめた。全員の記念撮影用に「明治大学」の幟を掲げようとしているのを見て「私も明大卒。シャツター押ししましょう」と名乗り出てくれた同窓の登山客にも遭遇した。

頂上からの下りは最も傾斜の緩い『裏道』を辿る当初の予定も、時間的節約？を優先し、皆ロープウェイ下山に変更。乗り場へ戻るのにも838(53卒)龍君江女史は「明日の熊野古道に備え、体力温存」と頂上駅までリフトを利用。意地でもリフトに乗らずグレレンデを登り下りする皆さんにリフトから涼しげに手を



振って。6人ずつ乗り込んだゴンドラ毎で「東洋一高いロープウェイ鉄塔」を車窓背景に写真撮影。眼下の伊勢平野へダイブするが如く約12分の雲上ドライブ。その急傾斜にゴンドラの中でも足がすくむ高度感を体感?!

山麓駅に迎えに来ていたバスで「希望荘」へ。夕食前に源泉かけ流し露天風呂で一汗流し、いざ宴会場に。477(37卒)天野徹明元会長のご挨拶の後、661(43卒)大賀徹雄新会長乾杯で開宴、旧交を温めた。山梨から前夜発・車中泊で参加した三森氏が調査執筆した

昭文社『山と高原地図・北岳甲斐駒』の編集後記談に一同感心しきり。高校校長と二足の草鞋で専ら南ア踏査ばかりのため、海が望める山に感動。「次は山梨Wか」の声も上がった。BN⁵³²(39卒)鈴木正彦前会長の豪快な

エールにのせて校歌大合唱。新旧会員入り乱れて夜半まで続いた二次会では、若い時代とは違ったヒザや脚に優しい自愛に満ちた山登りから社会貢献や働き方・仕事に亘つてのアドバイスや経験談は示唆に富み、明日への英気が養えた。先輩後輩の上下関係は単に敵いだけでなく、実に『有難いものだ』と実感。

翌5/12(日)熊野古道W一行12人を乗せたバスは、帰られる方々の見送りを受けて7時半JR四日市駅へ向け出発。本日も晴天。熊野古道の歴史と当日行程を再確認。予定のJRに乗り遅れると尾鷲駅で4時間待ちとなった。き締め、8・37発JR特急南紀1号に乗車。うたた寝する間に10・45尾鷲着。タクシード馬越峠(鷲毛)登山口へ。平成16年7月に世界文化遺産に登録された熊野古道。伊勢から熊野への道を多雨から守るため、ヒノキ・杉の木立を縫うように約2キロに亘って石畳が敷かれたシダの被さる山道。熊野大社へ向かう5ルートのひとつ、伊勢路の中で最も美しいとされる一番の人気コース。登山口の『平成25年皇太子(現天皇陛下)馬越峠登頂記念碑』を横目に何かしらの縁を感じながら登る。途中、ポスターに写っていた石畳登山道では、

皆さん、思い思いに撮影。水場で涼み、軽快に馬越峠（522m）に到着。この針葉樹林帯に江戸時代建っていた馬越峠茶屋と地藏堂址で薫風用にはパチリ。15分ほど下った東屋展望台にてランチ。帰りのJR出発時刻が気がかりなコースリーダーの心配をよそに静かにたう尾鷲湾がまぶしい。

屋敷もソコソコに馬越公園へ下り、タクシーで尾鷲駅へ急ぐ。無事、予定の13:32発JR特急南紀6号名古屋行に乗車。安堵で胸をなでおろす幹事。走り出すや否や、丸山企画振興部長の音頭で乾杯。あふれる笑顔。帰路の車窓に風景と共に映し出される各人名古屋の名古屋Wの想い出。16:10 JR名古屋駅到着。今後のため会の隆盛に尽力を誓ったW初参加者が若干名。元号は替わっても、変わらない山。MWV。なため会の絆。



BN	BN	BN	BN	BN	BN	BN	BN	BN	BN	BN	BN	名古屋W參加者名敬称
112094	191089	7859	7957	7516	6836	6615	5325	5274	477			
(16卒)	(58卒)	(57卒)	(56卒)	(56卒)	(51卒)	(49卒)	(44卒)	(43卒)	(39卒)	(39卒)	(37卒)	
天野 敬之	桂山 誠司	宇田川 透	山下 仁志	丸山 貞二	濱田 稔	諏訪本 弘	横手 一男	大賀 徹雄	鈴木 正彦	池田 陽一	天野 徹明	

BN	BN	BN	BN	BN	BN	BN	BN	BN	BN	BN	BN	BN
212011	15931	906871	838775	705682	558530	50505						
(43卒)	(16卒)	(58卒)	(57卒)	(55卒)	(53卒)	(50卒)	(45卒)	(44卒)	(39卒)	(39卒)	(38卒)	
鈴木	上原	三森	石田	平田	龍	小田野義之	杉山	森田	奥倉	磯崎	椎橋	
元典	誠	克人	猛	正弘	君江	裕	峰彦	勇一	守弘	稔		

計24名



針生山莊

ゴールデンウィークの針生ワーク

BN
1115
上原
誠

GW連休に針生山荘にワークに行ってきた。井上コーチ（BN¹⁰⁶⁴）に誘われたからです。曰く、「現役の正規活動のみでは、利用実績の面でもメンテナンスの面でも不十分であるし、何よりも我々の山荘としてもっともっとうちが利用しようではないか」とのこと。ワークといっても、布団干しや床のワックス磨き、異常に大量発生しているカメムシの退治といったもので実質は3割程度、その他のお楽



里の桜



南泉寺の平七桜



だいくらスキー場



地元のイベントでにぎわう築80年の旧喰丸小



床磨き後の山荘

しみ7割といったものでした。他の参加者は、尾崎元コーチ（BN1174）、岩田コーチ（BN1265）、由水コーチ（BN1306）といった面々です。特急リバティ会津に乗車すると、東武浅草から会津田島まで直通で約3時間半の快適な列車の旅が楽しめます。既に夏の暑さを感じる東京を離れ、残雪の残るトンネルを超えて田島が近づくと、車窓からは見事なまでの桜の競演が堪能できます。こちらでは都心から1か月遅れてゴールデンウィークに満開となるようです。都内の名所で見かけるソメイヨシノ一色とは異なり、枝垂れ、八重、山桜が様々に咲き乱れる風景に圧倒されます。ワーク後の夜は、BBQで一杯、井上コー

チお手製のフキ味噌のピザでもう一杯、地元名産のアスパラやごこみの山菜などを天ぷらでさらに一杯。「雪どけを待つて針生の山桜ほろ酔い語る山荘の夜」翌朝は、上部に雪が残るだいくらスキー場を登りつめ、遠く東北の山々を遠望しつつ、周辺の村によろやく訪れた春を感じることが出来ます。その後のドライブは、会津若松や大内宿といった観光地を避けて、針生の北方に位置する昭和村へ。そう、今年のGW連休は、都心も地方も主だったところは人だらけだったでしょう。それに比べて、まさに日本の原風景ともいえる山里が広がる昭和村は、

平成から令和への代替わりの喧騒も、長期連休の混雑からも離れて静穏な時間が流れていました。「平成が令和にうつるお祭りを静かに祝う昭和の里で」築80年の木造旧喰丸小学校で郷愁にふけり、金山町に入って地元名物の豆腐（諏訪本監督によると「たかい」豆腐屋と「かたい」豆腐屋があるそうで、どうも後者のようです）を入手したあとは、炭酸泉の湯で体を癒し、天然の炭酸水を汲んで（監督によるとこれでつくるサワーは絶品だとか）夜に備え、ローカル鉄道の見本のような只見線沿いの道を走って少年心を満たし、司馬遼太郎の小説

『峠』の河井継之助記念館を見学して幕末の会津の悲運なども感じつつ、何とも充実した一日でした。

手白ワークも、今では組織的に準備して、機械化を進めて作業していますが、当初は小屋を想うOB有志が自発的に参加し、汗を流しかつ楽しんでいたことでしょう。今回の針生ワークも、それと似た山荘を想うOB有志が・・・ということなのかもしれません。しかし、桜が咲き乱れるこの時期に、GW連休の喧騒を離れ、針生の里で静かに過ごす時間はとても魅力的です。また、この時期に限らずとも、針生山荘を起点に周辺の地域を回ること新らしい発見があることでしょう。そして、何よりも我々の山荘としてもっと利用しようではないか！

訃報

BN 463 野溝 辰男OBが平成30年9月20日にご逝去されました。
 BN 601 池上 勝彦OBが平成31年2月5日にご逝去されました。
 BN 277 原 正男OBが平成31年2月27日にご逝去されました。
 BN 627 和田 満OBが令和元年5月3日にご逝去されました。
 BN 493 原 喜啓OBが令和元年5月13日にご逝去されました。
 ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

■奥鬼怒山荘一部損壊報告

幹事長 BN 835 猪狩 稔

去る5月31日～6月1日に山小屋管理部主体の毎年恒例の「奥鬼怒山荘OBワーク」が実施されました。これは奥鬼怒山荘および水源や道を維持管理するためにOB有志が参加して、なため会の公式行事として行われております。

今年は放置しておくに近い将来山荘を潰す可能性のある危険木（山荘奥南側のモミの木 直径80cm高さ30m）を伐採する作業を専門家の協力を得て慎重に進めてまいりましたが、予測のできない状況が発生して山荘のほうに傾き、一部を壊してしまいました。

この事故につきましては諏訪本監督から大学に報告を行いました。山荘の老朽化や大学の方針もあり、山荘の存続については今後検討する旨の回答しか得られておりません。なため会としては現役の重要な活動拠点であり、OB、OGの思い出の詰まった山荘を、なため会の費用で修繕したいと考えております。

大学には山荘の存続をお願いしてまいりますが、修繕の許可が下りた時にはOB、OGの皆様にご協力をお願いする所存ですので、どうぞよろしくお願い致します。

■会員情報の連絡先のご案内

住所変更や慶弔事など、なため会々員の動静については、下記の総務部宛にメールまたはファックスで送信していただくか、あるいは直接担当者までご連絡願います。

総務部アドレス：sounu@natamekai.org
 ファックス：03-5553-914245
 小田野義之(75)
 住所：〒343-0021 越谷市大林428-14
 電話：090-2439-13463
 メール：yy888odano@docomo.ne.jp



■なため会規約改定について

※幹事長の任期について一部の文言（取消し線部分）を削除する。

第15条（役員と職務の任期）

各役員の職務は、次の通りとし、任期は2年とし再任を妨げない。但し、幹事長は2期を限度とする。

尚、幹事長は満65歳までとし任期途中で満65歳となった場合は、その任期満了までを限度とする。

体育会両雄の活躍を堪能

BN 552 坂上 雅彦

1965年(昭和40年)卒の78歳です。
私の現役時代は、秩父宮ラグビー場での12月初め恒例の北島監督が率いる早明戦ラグビーと春秋の六大学リーグ戦の母校の応援に出かけたものです。
それから

約半世紀後の今年
は、新年
早々1月12
日の秩父宮
ラグビー場
での「全国
大学選手権
大会」で、
なんと明治
ラグビーは
10年連続優
勝を目指す
帝京大学を
下した天理
大学に勝利
し、昨年の
帝京大学と
の決勝で涙
をのんだ雪
辱を見事に

11 2019年(令和元年)6月18日(火)



明大V 新時代の幕開け

全国大学選手権 12日

エディ流の分析 連係隙なし

【東京12日】明治大学ラグビー部は、12日(日)に東京都立野球場で行われた全国大学選手権(全大)の決勝で、帝京大学を1-0で破り、10年連続優勝を果たした。明治大学は、エディ・ジョーンズ監督の指導の下、新時代の幕開けを告げた。エディ監督は、試合後の記者会見で、選手たちの連係の良さを高く評価し、優勝への道を歩んだことを喜び、今後の目標として、さらなる躍進を誓った。また、エディ監督は、選手たちの成長と、チームの結束の強さを強調し、今後の大会でも優勝を目指すと宣言した。

天理大あと一步 次への糧に

【東京12日】明治大学ラグビー部は、12日(日)に東京都立野球場で行われた全国大学選手権(全大)の決勝で、帝京大学を1-0で破り、10年連続優勝を果たした。明治大学は、エディ・ジョーンズ監督の指導の下、新時代の幕開けを告げた。エディ監督は、試合後の記者会見で、選手たちの連係の良さを高く評価し、優勝への道を歩んだことを喜び、今後の目標として、さらなる躍進を誓った。また、エディ監督は、選手たちの成長と、チームの結束の強さを強調し、今後の大会でも優勝を目指すと宣言した。



2019年(令和元年)6月18日(火) 14版 スポーツ 18

明大 38年ぶり優勝

【東京12日】明治大学ラグビー部は、12日(日)に東京都立野球場で行われた全国大学選手権(全大)の決勝で、帝京大学を1-0で破り、10年連続優勝を果たした。明治大学は、エディ・ジョーンズ監督の指導の下、新時代の幕開けを告げた。エディ監督は、試合後の記者会見で、選手たちの連係の良さを高く評価し、優勝への道を歩んだことを喜び、今後の目標として、さらなる躍進を誓った。また、エディ監督は、選手たちの成長と、チームの結束の強さを強調し、今後の大会でも優勝を目指すと宣言した。



38年ぶりの優勝を果たした森下(中央左)ら明大の選手たち。三田(右)も活躍

森下完投 MVP

【東京12日】明治大学ラグビー部は、12日(日)に東京都立野球場で行われた全国大学選手権(全大)の決勝で、帝京大学を1-0で破り、10年連続優勝を果たした。明治大学は、エディ・ジョーンズ監督の指導の下、新時代の幕開けを告げた。エディ監督は、試合後の記者会見で、選手たちの連係の良さを高く評価し、優勝への道を歩んだことを喜び、今後の目標として、さらなる躍進を誓った。また、エディ監督は、選手たちの成長と、チームの結束の強さを強調し、今後の大会でも優勝を目指すと宣言した。

【東京12日】明治大学ラグビー部は、12日(日)に東京都立野球場で行われた全国大学選手権(全大)の決勝で、帝京大学を1-0で破り、10年連続優勝を果たした。明治大学は、エディ・ジョーンズ監督の指導の下、新時代の幕開けを告げた。エディ監督は、試合後の記者会見で、選手たちの連係の良さを高く評価し、優勝への道を歩んだことを喜び、今後の目標として、さらなる躍進を誓った。また、エディ監督は、選手たちの成長と、チームの結束の強さを強調し、今後の大会でも優勝を目指すと宣言した。

2018年度 卒業生 歓送迎会

■日 時 2019年2月23日(土) 12時30分～15時00分 ■場 所 岸本・宮城ホール

■式次第（敬称略）

12:30 開 会	13:40 卒業生より記念品贈呈
部長先生挨拶	現役生より記念品贈呈
会長挨拶	卒業生挨拶
監督挨拶	なため斉唱
送 辞	校歌斉唱
答 辞	写真撮影
バックル授与	15:00 お開き
13:10 乾 杯	
歓 談	
スライドショー	



■出席者：71名

●卒業生：15名

1329 福澤 光浩	1330 奥山 昂	1331 藤井裕希恵	1332 吉田 理人	1333 守屋 雄貴	1334 大室 克磨
1335 平 将秀	1336 沼田 直也	1337 今井 幹登	1338 林 薫平	1339 田中 雄大	1340 森山 澤嗣
1341 朝倉 慶	1342 乗木 大朗	1343 武内 真			

●なため会会員：24名

489 野村 司	501 前田 芳弘	505 椎橋 稔	527 池田 陽一	532 鈴木 正彦	661 大賀 徹雄
717 住田 孔一	728 横尾 廣志	788 原田 博文	792 柳川 俊泰	835 猪狩 稔	859 丸山 貞二
879 井上 稔也	915 日暮 浩美	1000 長峰 章	1064 井上 堅一	1115 上原 誠	1174 尾崎 剛史
1200 高橋 信勝	1282 諏訪部貴亮	1296 前川 晃慶	1306 由水 雅也	1328 山本 新大	2120 鈴木 元典

●現役：32名

4年 青柳 晃太	4年 大原正太郎	4年 柿原 匡佑	4年 木皿京太郎	4年 小島 桃李	4年 杉井 一毅
4年 高橋 和大	4年 林 亮太	4年 藤巻日向子	4年 北条 豪一	4年 星與 志也	3年 家子 貴暁
3年 伊藤 悠人	3年 梅澤 直希	3年 梅野 航	3年 岡田 茜	3年 尾島 佐和	3年 小野 剛志
3年 桑原倫太郎	3年 小林 亮太	3年 杉本 雪乃	3年 手島 寛人	2年 相磯 匡輝	2年 市川 拓真
2年 伊藤 秀嶺	2年 北上 泰河	2年 齋藤 慎太	2年 柴丸 貴	2年 芝本 真都	2年 田中 雄基
2年 三石 遼	2年 渡邊 延暁				



2019年度 なため会幹事会・会員総会

■日 時 2019年5月25日(土) 12時30分～15時00分 ■場 所 リバティタワー23F 岸本・宮城ホール

■式次第 (敬称略)

12:30 幹事会 幹事長挨拶

一、審議事項

- | | |
|-----------------|----------|
| (一) 2018年度事業報告 | 猪狩幹事長報告 |
| ・原案通り承認されました。 | |
| (二) 2018年度決算報告 | 柳川財務部長報告 |
| ・原案通り承認されました。 | |
| (三) 2018年度監査報告 | 横尾監事報告 |
| ・原案通り承認されました。 | |
| (四) 2019年度組織変更案 | 猪狩幹事長説明 |
| ・原案通り承認されました。 | |
| (五) 2019年度規約改定案 | 猪狩幹事長説明 |
| ・原案通り承認されました。 | |
| (六) 2019年度事業計画案 | 猪狩幹事長説明 |
| ・原案通り承認されました。 | |
| (七) 2019年度予算案 | 猪狩幹事長説明 |
| ・原案通り承認されました。 | |

二、報告事項

- ・現役の活動状況報告 諏訪本監督報告

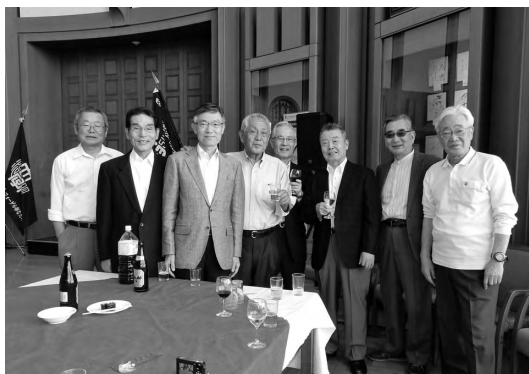
13:20 会員総会

会長挨拶
幹事会報告
乾杯
歓談
部歌斉唱
校歌斉唱
写真撮影
お開き

15:00

■出席者 (会員：41名)

228 島林 順三	299 大内 善一	392 内田 吉成
393 植木 正子	398 小林 伸行	451 山田 祥二
455 飯村 朋園	477 天野 俣明	487 鈴木 康弘
501 前田 芳弘	505 椎橋 稔	527 池田 陽一
530 磯崎 守弘	532 鈴木 正彦	539 小島 政男
549 三嶋 保郎	597 大洞 聡	610 石田 正
614 石井 克太	661 大賀 徹雄	663 吉澤 利男
683 横手 一男	705 杉山 裕	714 南出 進
717 住田 孔一	728 横尾 廣志	751 諏訪本 充弘
764 高橋 寿子	788 原田 博文	792 柳川 俊泰
835 猪狩 稔	838 龍 君江	859 丸山 貞二
879 井上 稔也	897 山下 仁志	915 日暮 浩美
1064 井上 堅一	1106 前田 裕司	1115 上原 誠
1200 高橋 信勝	2120 鈴木 元典	



なため会 組織 (2019年4月～2020年3月)

会 員 総 会

幹 事 会

■顧問	田村 敏夫(800)	新田 功(1100)	長峰 章(1000)	
■部長	高橋 信勝(1200)			
■相談役	新村 貞男(181)	小林 碧(197)	島林 順三(228)	篠崎 徳量(241)
	大内 善一(299)	西村 幸一(313)	足立 康弘(339)	吉田 修(345)
	内田 吉成(392)	紀伊辰之助(423)	天野 俣明(477)	鈴木 正彦(532)

運 営 委 員 会

■役 員	会 長	大賀 徹雄(661)		
	副会長	住田 孔一(717)		
	幹事長	猪狩 稔(835)		
	副幹事長	日暮 浩美(915)		
	監 事	石田 正(610)	横尾 廣志(728)	
	駿台体育会理事	諏訪本充弘(751)	和賀井英雄(817)	
	参 与	奥倉 勇一(558)	横手 一男(683)	濱田 稔(795)
	監 督	諏訪本充弘(751)		
	コーチ	井上 堅一(1064)	岩田 卓也(1265)	浜口小百合(1273)
		諏訪部貴亮(1282)	由水 雅也(1306)	
■部 会	総務部	(部長) 小田野義之(775)	(副) 原田 博文(788)	日暮 浩美(915)
	財務部	(部長) 柳川 俊泰(792)	(副) 上原 誠(1115)	
	広報推進部	(部長) 井上 稔也(879)	(副) 住田 孔一(717)	(副) 加藤 章一(845)
		鈴木 康弘(487)	一色 雅男(570)	石井 克太(614)
	企画振興部	(部長) 丸山 貞二(859)	(副) 山下 仁志(897)	龍 君江(838)
		平田 正博(871)	井上 堅一(1064)	
	山小屋管理部	(部長) 杉山 裕(705)	(副) 植木 進(846)	山口 直樹(1017)
	事業運営部	(部長) 安部 好洋(1006)	(副) 猪狩 稔(835)	
■運営委員	前田 芳弘(501)	池田 陽一(527)	石井 克太(614)	野島 一雄(676)
	龍 君江(838)	平田 正博(871)		

上記以外の幹事

組 織 変 更 詳 細

BN	氏 名	異動内容	BN	氏 名	異動内容
1000	長峰 章	2019年3月31日 MVN部長退任	795	濱田 稔	企画振興部部長退任
1200	高橋 信勝	2019年4月1日 MWV部長就任	859	丸山 貞二	企画振興部部長退任
532	鈴木 正彦	会長退任、相談役選任	897	山下 仁志	企画振興部副部長退任、運営委員退任
661	大賀 徹雄	副会長退任、会長選任	909	谷 浩明	総務部、運営委員退任
558	奥倉 勇一	副会長退任	1156	中村 央	運営委員退任
717	住田 孔一	副会長退任	1296	前川 晃慶	コーチ退任
527	池田 陽一	監事退任、運営委員選任	1265	岩田 卓也	コーチ選任
610	石田 正	監事選任			

2018年度 なため会決算報告 (自2018.4.1 至2019.3.31) 財 務 部

【支出の部】

項 目	2018年度予算	2018年度実績
MWV支援費	1,113,000	661,627
MWV活動補助費	200,000	61,655
駿台体育会カレンダー購入費	50,000	50,000
長峰章先生に感謝する会	413,000	353,172
会場使用料	52,000	48,600
現役会費補助費	240,000	186,000
吊着板代	11,000	10,260
花束代	10,000	10,000
予備費	100,000	98,312
歓送迎会運営費	401,000	151,300
卒業生会費	98,000	52,000
現役会費補助費	240,000	48,000
会場使用料	52,000	51,300
吊着板代	11,000	0
懇親会参加補助費	49,000	45,500
なため会活動費	850,000	714,051
総務部	307,000	232,363
会議案内通信費	70,000	57,821
薫風運送費	170,000	163,462
慶弔費	50,000	10,000
事務用品費	2,000	1,080
名刺作成費	5,000	0
明大スポーツ新聞購入費	5,000	0
住所不明調査費	5,000	0
財務部	55,000	54,641
会費集金手数料	45,000	46,055
振り込み手数料	10,000	8,586
広報推進部	355,000	307,104
薫風制作費	280,000	294,624
薫風制作通信費	5,000	1,680
ホームページ維持管理費	10,000	10,800
プロバイダー更新費	0	0
史料編集費	10,000	0
ホームページ改定費	50,000	0
山小屋管理部	70,000	58,130
奥鬼怒山荘ワーク補助費	70,000	58,130
事業運営部	63,000	61,813
会場使用料	49,000	48,600
吊着板代	11,000	10,260
通信運搬費	3,000	2,953
駿台体育会活動費	145,000	125,000
駿台体育会分担金	50,000	50,000
駿台体育会理事活動費	95,000	75,000
会費増収推進費	100,000	0
周年行事費	0	0
【会員名簿作成費】	0	0
予備費	100,000	25,699
親睦会予備費	140,360	79,000
支 出 合 計	2,448,360	1,605,377

【収入の部】

前年度繰越金	5,579,921	5,579,921
会費	1,650,000	1,580,000
利息収入	0	27
諸収入	50,000	99,465
薫風広告収入	50,000	65,000
親睦会剰余金	0	32,465
その他収入	0	2,000
収 入 合 計	7,279,921	7,259,413
収 入 差 額	4,831,561	5,654,036

【なため会基金】

項 目	2017年度末残高	2018年度末残高
廣隅家・鈴木家・柴田家寄付金	1,083,000	1,083,000
山小屋募金他	3,257,000	3,257,000
校友会館（紫紺館）建設基金	491,000	491,000
合 計	4,831,000	4,831,000

＜資産内訳1＞

次年度繰越金	5,579,921	5,654,036
OB基金	4,831,000	4,831,000
次年度会費	1,157,970	1,092,270
資 産 合 計	11,568,891	11,577,306

＜資産内訳2＞

通常貯金（ゆうちょ銀行）	2,718,928	2,602,920
普通預金（三菱UFJ銀行）	171,993	386,116
定期貯金（ゆうちょ銀行）	7,631,000	7,631,000
振替貯金（ゆうちょ銀行）	1,046,970	957,270
現 金	0	0
資 産 合 計	11,568,891	11,577,306

上記の通り報告致します。 財務部 柳川俊泰（792）
上原 誠（1115）

2018年度決算報告を監査した結果、その適正なことを確認しましたので、報告いたします。

監 事 池田陽一（527） 横尾廣志（728）

2018年度事業報告

1 重点目標

- 1 会員サービスの向上
- 2 会費納入の強化
- 3 運営委員の増員

2 活動報告

- 1 2018・4・10(火) 運営委員会（体育記念室）
- 2 2018・4・24(火) 駿台体育会第1回理事会（アカデミーコモン）
- 3 2018・4・25(水) 2017年度会計監査（体育記念室）
- 4 2018・5・8(火) 運営委員会（体育記念室）
- 5 2018・5・19(土) 第65回なため会W（湘南）
- 6 2018・5・26(土) 幹事会・会員総会（紫紺館）
- 7 2018・6・1(金)～3(日)

奥鬼怒山荘ワークワンデルング

- 8 2018・6・12(火) 運営委員会（体育記念室）
- 9 2018・6・20(水) 駿台体育会総会（リパティタワー）
- 10 2018・7・10(火) 運営委員会（体育記念室）
- 11 2018・7・21(土) 薫風57号発送（体育記念室）
- 12 2018・7・28(土)～29(日)

第66回なため会W（秋田）

- 13 2018・9・11(火) 運営委員会（アカデミーコモン）
- 14 2018・10・2(火) 駿台体育会第2回理事会（大学会館3F）
- 15 2018・10・9(火) 運営委員会（体育記念室）
- 16 2018・10・20(土) 第67回なため会W（鎌倉）
- 17 2018・10・29(月) 駿台体育会親善ゴルフ大会

（久能カントリー倶楽部）

- 18 2018・11・13(火) 運営委員会（体育記念室）
- 19 2018・11・24(水) 長峰章部長先生に感謝する会（紫紺館）
- 20 2018・12・2(日) 早明ラグビー観戦（秩父宮ラグビー場）
- 21 2018・12・5(水) 大学役職者と駿台体育会との懇親会

（リパティタワー）

- 22 2018・12・29(土)～31(月)

奥鬼怒山荘ワークワンデルング

- 23 2019・1・8(火) 運営委員会（体育記念室）
- 24 2019・1・26(土) 薫風58号発送（体育記念室）
- 25 2019・1・26(土)～27(日)

駿台体育会と体育会監督会との

合同研修会（箱根湯本ホテルおかだ）

- 26 2019・2・2(土) 第68回なため会W（富士山周辺）
- 27 2019・2・12(火) 運営委員会（体育記念室）
- 28 2019・2・23(土) 2018年度卒業生歓送迎会

（リパティタワー）

- 29 2019・3・12(火) 運営委員会（体育記念室）

2019年度 なため会予算
(自2019.4.1 至2020.3.31) 事業運営部

【収入の部】

項 目	2019年度予算	2018年度実績
前年度繰越金	5,654,036	5,579,921
会費	1,600,000	1,580,000
利息収入	0	27
諸収入	50,000	99,465
薫風広告収入	50,000	65,000
親睦会剰余金	0	32,465
その他収入	0	2,000
収 入 合 計	7,304,036	7,259,413

【支出の部】

MWV支援費	554,000	661,627
MWV活動補助費	200,000	61,655
駿台体育会カレンダー購入費	50,000	50,000
長峰章先生に感謝する会	0	353,172
会場使用料	0	48,600
現役会費補助費	0	186,000
吊看板代	0	10,260
花束代	0	10,000
予備費	0	98,312
歓送迎会運営費	227,000	151,300
卒業生会費	44,000	52,000
現役会費補助費	120,000	48,000
会場使用料	52,000	51,300
吊看板代	11,000	0
懇親会参加補助費	77,000	45,500
なため会活動費	1,013,800	714,051
総務部	302,000	232,363
会議案内通信費	70,000	57,821
薫風運送費	170,000	163,462
慶弔費	50,000	10,000
事務用品費	2,000	1,080
名刺作成費	5,000	0
明大スポーツ新聞購入費	5,000	0
財務部	85,000	54,641
会費集金手数料	75,000	46,055
振り込み手数料	10,000	8,586
広報推進部	369,800	307,104
薫風制作費	290,000	294,624
薫風制作通信費	5,000	1,680
ホームページ維持管理費	10,800	10,800
プロバイダー更新費	0	0
史料編纂費	0	0
ホームページ改定費	54,000	0
ホームページサーバー更新費	10,000	0
山小屋管理部	70,000	58,130
奥鬼怒山荘ワーク補助費	70,000	58,130
企画振興部	60,000	0
ワンデルングマネージ費	35,000	0
ワンデルング用医薬品費	15,000	0
予備費	10,000	0
事業運営部	127,000	61,813
会場使用料	103,000	48,600
吊看板代	11,000	10,260
通信運搬費	3,000	2,953
花束代	10,000	0
駿台体育会活動費	145,000	125,000
駿台体育会分担金	50,000	50,000
駿台体育会理事活動費	95,000	75,000
会費増収推進費	240,000	0
地域親睦会案内通信費	40,000	0
ノベルティ制作費	140,000	0
予備費	60,000	0
周年行事費	432,000	0
バックル制作費	432,000	0
予備費	100,000	25,699
親睦会予備費	93,825	79,000
支 出 合 計	2,578,625	1,605,377
次年度繰越金	4,725,411	5,654,036
合 計	7,304,036	7,259,413

2019年度事業計画

1. 重点目標

会員サービスの向上
会費納入の強化
運営委員の増員

2. 活動計画

- 4月9日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 4月23日(火) 駿台体育会第1回理事会(アガミ・ミ・エ)
- 4月26日(金) 2018年度会計監査(体育記念室)
- 5月11～12日 第69回なため会W(名古屋)
- 5月14日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 5月25日(土) 幹事会・会員総会(リバティタワー)
- 5月31～6月2日 奥鬼怒山荘ワークワンデルング
- 6月11日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 6月19日(水) 駿台体育会総会(アガミ・ミ・エ)
- 7月9日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 7月13日(土) 薫風59号発送(体育記念室)
- 7月27日(土) 第70回なため会W(大菩薩嶺)
- 9月10日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 10月1日(火) 駿台体育会第2回理事会(アガミ・ミ・エ)
- 10月8日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 10月26～27日 第71回なため会W(丹沢)
- 11月11日(月) 駿台体育会親善ゴルフ大会(未定)
- 11月12日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 12月4日(水) 大学役職者と駿台体育会との懇親会(アガミ・ミ・エ)
- 12月7日(土) 忘年会・幹事会 ※1(リバティタワー)
- 12月29～31日 奥鬼怒山荘ワークワンデルング
- 1月14日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 1月25日(土) 薫風60号発送(体育記念室)
- 1月25～26日 駿台体育会と体育会監督会との合同研修会(箱根湯本ホテルおかだ)
- 2月12日(水) 運営委員会(体育記念室)
- 2月15日(土) 第72回なため会W(未定)
- 2月22日(土) 2019年度卒業生歓送迎会 ※2(リバティタワー)
- 3月10日(火) 運営委員会(体育記念室)

※1 開催日時・会場は大学行事により変動

※2 開催日時・会場は大学行事により変動

神奈川・丹沢湖畔

よつくがわ
世附川ロッジ

都内から車や電車で約2時間

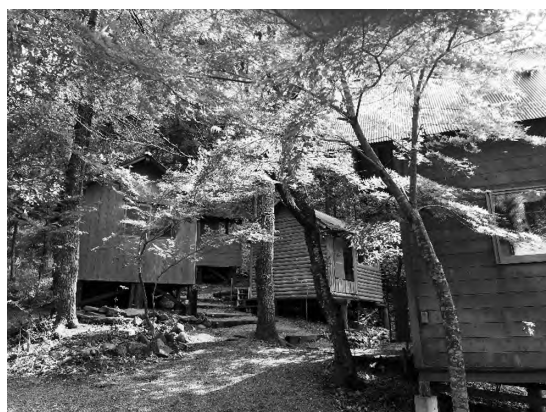
春 … 山菜採り

夏 … 川遊び

秋 … 紅葉狩

冬 … 耐寒訓練

100名収容 通年営業



料金表（税別） チェックイン：14:00 チェックアウト：10:00

大人	1,500円 / 泊 / 人
中学生	1,200円 / 泊 / 人
子供（3歳～小学生）	1,000円 / 泊 / 人
乳幼児（3歳未満）	0円 / 泊 / 人

掛・敷布団・枕セット 1,200円 / 泊 / 組	
夏掛・マット・枕セット 700円 / 泊 / 組	
木炭（2kg） 500円	毛布（1枚） 300円 / 泊
薪（コンテナ1箱） 500円	シャワー 300円 / 回 / 人

•当ロッジは平成4年度農学部卒
BN.1106 前田裕司 が代表を務める
有限会社 丹沢が管理運営しています。

•ご予約の際は「なため会」の・・・と
お伝えください。

ご予約・お問合せはお気軽に
0465-78-3636 (担当・志村)へお電話ください。

詳しくは「世附川ロッジ」で検索してください。

公式 HP をご覧いただけます。[世附川ロッジ](#) [検索](#)



バンガロー
(10棟)



上原誠法律事務所のご案内

平成5年度卒 BN 1115 上原 誠

<事務所所在地>

上原誠法律事務所

〒101-0051

東京都千代田神田神保町1-7 日本文芸社ビル7階

TEL 03-3518-9750 FAX 03-3518-9760

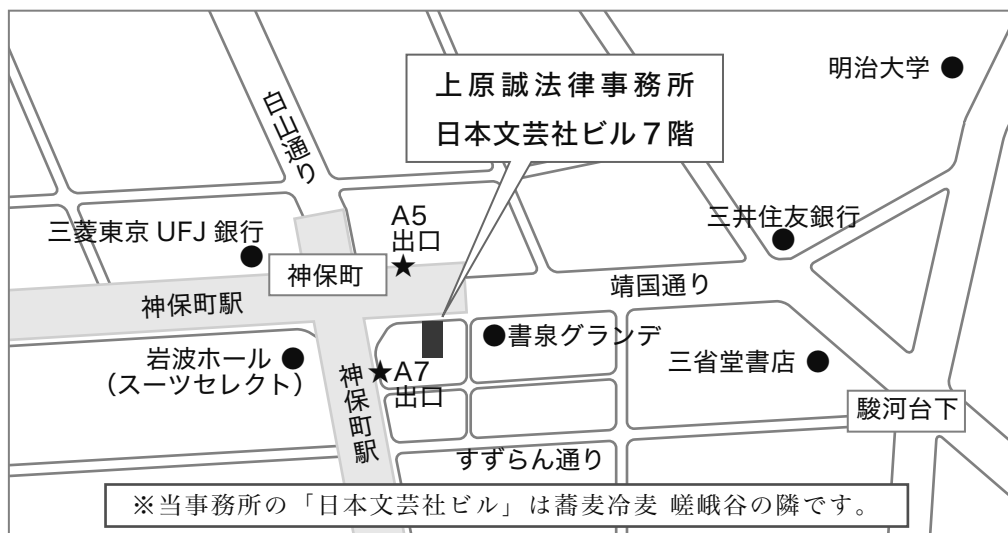
HP <http://uehara-law.com>

E-mail uehara@uehara-law.com

<交通案内>

○東京メトロ・都営地下鉄神保町駅A7/A5出口より徒歩1分

○JR御茶ノ水駅より徒歩7分



編集後記

BN 717 住田 孔一

薫風編集委員、池上勝彦先輩が亡くなられた。暮れも押し迫って編集委員会が何時もの駅前喫茶で開かれた。早く来られて舗道を上から眺められる席で、本を読みながら静かにビールを飲んでおられました。年が明けての訃報に唯々驚かされたものです。風邪をこじらせたらしい。現役の活動は一緒ではありませんでしたが、初めてお会いしたのが昭和五十年頃、鈴木正彦前会長主催の春スキーが中央アルプス千畳敷カールで行われた時でした。伊那出身の先輩も参加され、確かご結婚前だったと記憶しています。その後駿台体育会ゴルフ大会で度々ご一緒し、スコアよりもゴルフを楽しむブレースタイルでした。最近では右肩が上がらないと言って一緒にプレーは叶いませんでしたが、温厚でお酒が好きで、早明ラグビー観戦など明治をこよなく愛された先輩でした。 合掌

発行日 二〇一九年七月
編集 一色雅男 石井克太 住田孔一
猪狩稔 加藤章一 井上稔也
日暮浩美
発行者 明治大学体育会
ワンダーフォーゲル部なため会
印刷所 三協印刷株式会社